

地域連携プラットフォームに関する取組例 「めぶく。プラットフォーム前橋」

前橋市の課題は人口減少であり、特に生産年齢人口（15歳～64歳）の変動が大きく、平成17（2005）年から平成27（2015）年までの10年間で約2万2千人が減少しています。

その大きな要因が、15歳～24歳の転出超過であり、進学や就職のタイミングで市内に定着しにくい状況となっています。また、定着の状況について他機関を含め具体的な数値を把握できていないことや、市内全ての大学が参加する形での産官学連携体制が図られておらず、それぞれのリソースを十分に共有・発揮できていないことも大きな課題と捉えていました。

そこで、平成30（2018）年9月25日、市内の国公私立全6大学・前橋商工会議所・前橋市は、連携協定を締結し、産学官が知恵を出し合うための協議会「めぶく。プラットフォーム前橋」を設立して、地域人材の育成・定着の課題解決に向けた強固な連携体制を推進しています。

プラットフォーム形成によって、産業界、行政、教育界が共通して抱える複合的な地域課題（若者の地元進学・就職、事業承継等）の解決を行うことを目標にしています。

（高等教育に係る目標の例）

- ・前橋市内大学の魅力向上と情報発信の強化を通じ、入学者市内占有率について令和5（2023）年度までに平成30（2018）年度実績以上の水準を達成します。
- ・魅力溢れる市内産業との接触機会の創出等を通じ、市内就職率について令和5（2023）年度までに平成30（2018）年度実績以上の水準を達成します。



産学官代表者らによる連携協定締結の様子



本プラットフォームに参画する産学官各団体のロゴ